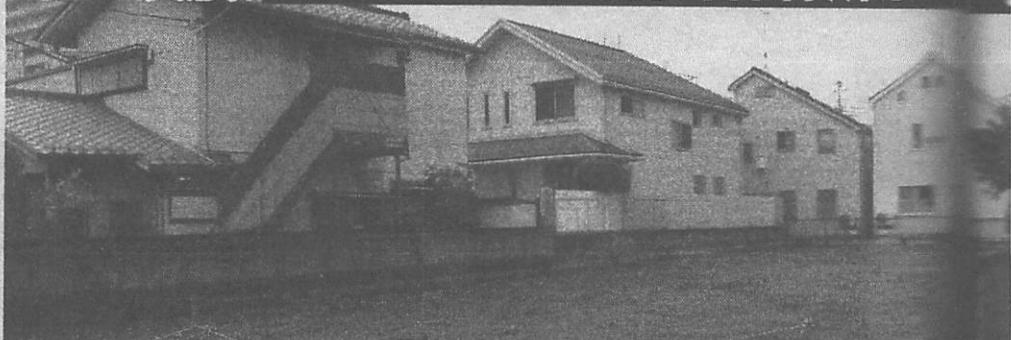


小池都知事に武藏野市の反旗、東京都が認めた認可保育所が



小池都知事は、公約の目玉に掲げる待機児童解消に動きだした。早期実現が望まれる



既存の保育所では子供を守る配慮で電柱には車の通行を訴える文言が



住宅密集地にある、保育所の設置が予定されていた土地。

うそですか！

策してもらえるよう話をしました。市がバックアップしてくれるなら大丈夫だと思ったのですが

事業者側も自分たちの経験不足を補うために、ベテランの保育士を一定数配置したり、保育事業のコンサルタントをつけたりして対応するということになっていたという。道路についても、ガードマンを立てたり、市でもボールを立てたりする予定だった。

武藏野市の待機児童数は、今年4月段階で122人。しかし、子育てしながら働いていたり前の上島さんは、「数に表れない『隠れ待機児童』は、もつ」と指摘する。

なかでも、保護者を悩ませているのは、「3歳の壁」だ。「武藏野市は、これまで3歳児未満の待機児童が多くつたので、ここ数年小規模保育所（※）や認証保育所をどんどんつくりつきました。でも、子供は当然、成長していくますから、3歳になったときに預かってくれる認可保育所の空きがなくて、多くの保護者が困っているんです」

結局、預かり時間の短い幼稚園に入れざるを得ず、仕事

を辞める保護者も出てきた。上島さん自身も、現在2歳の子供を、3歳未満児がメインの認証保育所に入れており、来春以降の預け先は決まっていない。

一方で、事業者は、なぜ撤退を決意したのか。女性経営者に聞くと次のような答えが。

「4月から土地の賃料も発生していますし、園の設計料など合わせると、すでに数千万円の支出が発生しています。これ以上着工が延びたら、来年4月に開園できませんし、支出が膨らむばかりです」

彼女は、若いころ吉祥寺に住んでいたことがあります。この夢だったといふ。地で保育所を開くことが長年の夢だったといふ。

「10年ほど前から土地を探していて、やっと見つけたのに。市はなぜ、着工を決断してくれなかつたんでしょうか。政争の具にされ、地元の母親が集めた4千人の署名をなべきたつた。政争の具にされたとしても仕方ない甘さがあったのです」

来年春からの預け先が決まつていらない母親のこんな切実な声もあった。

「今まで、子育てが仕事かの選択を迫られなければならぬのか」

昨今、住民の反対で保育所の設置が頓挫するケースをよく耳にする。東京都の担当者が尋ねたところ、こう語った。

「計画を承認しても事業を断るうか。

念するケースは年に3件くらいあります。計画が事業開始

までこぎつけられなかつたの

は残念です」

待機児童数を減らす小池知事の方針にも反する事態を回避する方法はなかつたのか。

保育学研究者で、みずからも保育所も営んでいる村山祐一氏は、市の見通しについてこう断じる。

「そもそも、わずか1年でつくるうなんて無理があります。

認可保育所の設置責任は、市初から事業者に任せっきり。とにかく都会の場合は、近隣住民

が納得する土地の取得が大変なのでだから、市はその段階から、事業者と二人三脚で進めねかつたんでしょう。

が納得する土地の取得が大変なわけだ。政争の具にされたとしても仕方ない甘さがあつたのです」

「いつまで、子育てが仕事かの選択を迫られなければならぬのか」

超高齢社会を支える子供の世代に、いつまで無責任な大人たちのシワ寄せがいくのだろうか。